

第2章 川崎市のコミュニティ活動事例に見る「連携」

ここでは、川崎市において実際に地域の課題解決や地域コミュニティの活性化に関して効果をあげている7つの活動事例を取り上げ、具体的にその手法や仕組みを分析し、川崎市におけるコミュニティ施策に必要な要素を抽出していきます。特に関係団体間の連携の手法、役割、効果について検討していきたいと思います。

なお、コミュニティ施策に関する他の政令指定都市の取り組みについては、本報告書の資料編で紹介します。



子ども達が楽しむ昔遊び体験などのイベント



新しい住民との交流を図る夏祭り

第1節 川崎市のコミュニティ活動の事例

(1) 宮前区子ども安全・安心協議会

1. 設立趣旨

小学生などを犯罪から守り、子ども達の登下校時等における安全を確保するなど、地域社会全体が安心して暮らせる社会を目指して、区内の各小学校とその保護者、地域の関係団体並びに区民、事業者、警察及び行政が一体となった取組みを推進するため平成18年3月に設立されました。

2. 設立に至る経緯

子どもが被害者となる事件が全国の各地で続発する中で、次世代を担う子ども達を保護者や学校だけでなく、地域のさまざまな人々が、ひいては地域で活動する事業者等も連携し合い、地域全体で子ども達の安全やその成長を見守り、支援することが喫緊の課題であると位置づけ設立に至りました。

3. これまでの取組み

- (1) 登下校時の見守りパトロール
- (2) あいさつ・声かけ運動の実施
- (3) IDカード、腕章、ベスト(ビブス)等の作成・配布
- (4) 通学路や公園等の危険箇所の点検
- (5) 安全に関する講演会の開催
- (6) 地域安全マップづくり

4. 今後の課題

- (1) 地域のコミュニケーションの強化・充実
- (2) 活動の継続

5. 考察

小学校区を単位として、活動目的の異なる各種団体が、地域課題(子どもの安全・安心)の解決に向けて連携している事例です。具体的には、これまでの活動に加えて、子どもを犯罪から守るまちづくりをテーマとした事業などを地域で行なっていくことで、顔の見える関係づくりを図っていかうとしています。

(2) 野川西団地自治会

1. 趣旨

一人暮らしのお年寄りの孤独死を防ぐため、自治会主導による独自の対策として実施しています。

2. 経緯

築30年を超えるような公営団地・住宅等では、核家族化等に伴い居住者の高齢化が問題になっており、独り暮らしというケースも少なくなく、孤独死やトラブルに対処できないというケースも多くあります。築34年を迎える野川西団地についても、392世帯の内、164世帯が60歳以上の高齢者であり、独り暮らしの方も多いため、何らかの対策が必要でした。

3. 取組み

居住している独り暮らしのお年寄りに緊急連絡先や病院などの情報を紙に書いてもらい、それを封筒に入れて封をしています。そして、お年寄りやその部屋の異変に気づいたら、素早く封筒を開けて、親族などの連絡先に連絡します。そういうことで、ドアが開かず、部屋の中の状況がわからない時でも、すぐに許可をとって中に入れるため、素早い対応ができます。封をして保管をするため、「プライバシーが守られる」と、独り暮らしのお年寄りも安心して情報を提供してくれます。2年に1度の更新の際には、古い封筒を本人にお返ししているため、情報が漏れていないか確認もでき、それがさらなる信頼につながっています。この活動のおかげで、この1年間、孤独死をゼロにすることができました。

野川西団地自治会では、この封筒による連絡先の把握だけでなく、一人暮らしのお年寄りを、さりげなく「見守る」ことで、異変を素早くキャッチしようとしています。

- (1)ポスト … 郵便物や新聞がたまっていないか
- (2)窓のカーテン … 開け閉めが毎日されているか
- (3)洗濯物 … 干す、取り込む、が毎日行われているか 等…

団地に住むボランティアが、お年寄りに直接会うのではなく、お年寄りの生活のシグナルを外からチェックして、安否確認をします。ボランティアは、買い物などのついでにそうしたシグナルをチェックします。これらの活動は、お年寄りも煩わしく感じずに済み、さらに、見守る人も負担を感じずにできると考えています。

4. 今後の課題

現在の活動からさらに一歩進んで、一人暮らしのお年寄りが、普段から地域とつながり、明るく豊かな暮らしを送れるようにするために、どのような活動ができるかについて、検討の必要があるのではないか、と考えています。

5. 考察

孤独死をなくすためには、地域から孤立しないように見守ることが大事ですが、あからさまな監視は、お互いに負担となってしまいます。しかし前提には、団地内にある元々のコミュニティの存在は大きく、その上に成り立っている活動であることに注目すべきです。どのようにさりげなく見守るのが大切で、それを解決した町内会・自治会の事例です。

(3) 住民交流活動拠点「小倉の駅舎 陽だまり」**1. 設置目的**

- ・地域住民がいつでも気楽に行くことのできる、身近な交流場所としてのスペースを確保することにより、住民同士がお互いに支えあい、安心して暮らせる豊かな福祉のまちづくりをめざします。
- ・川崎市幸区社会福祉協議会地域福祉活動計画(第2期さいわいコミュニティプラン21)の新規重点事業として位置付けられています。

2. 拠点の開設までの流れ

- ・拠点候補場所の下見
- ・拠点候補地の選定
- ・運営委員会の設置 地区社会福祉協議会(会長・副会長・会計・事務局長)、商店街会長、老人クラブ会長、子ども会会長・地区町内会連合会会長・地区民生委員児童委員協議会会長・地元町内会長 12名
- ・開所式及び開所

3. 利用目的

- おしゃべり、友達に会いに ○コーヒー、お茶を飲みに ○本の貸し出し
- 散歩や病院の途中や帰りに ○デイセントーの帰りに ○昼食を食べに
- 子ども会の作品展示(書道・絵画) ○折り紙 ○尺八、琴演奏で童謡を歌う
- 小学生が宿題やゲームをしに ○花を育てる ○テレビを見る
- 団体利用(老人クラブ、子ども会、ボランティアグループ)

4. 「小倉の駅舎 陽だまり」利用状況 (平成19年11月12日～平成20年10月30日)**1. 利用登録者**

単位:人

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
男性	20	38	18	20	12	17	9	21	7	8	4	7	181
女性	74	43	58	47	30	37	13	40	18	9	9	12	390
計	94	81	76	67	42	54	22	61	25	17	13	19	571

2. 利用者延人数

単位:人

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
計	233	282	359	403	374	417	352	432	406	344	376	439	4417

3.1日の平均利用者数 : 18.4人

4. 利用登録者の年代

単位:人

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明	計
45	17	5	27	31	55	108	194	64	7	18	571

5. 利用登録者の住所

単位:人

小倉	南加瀬	北加瀬	東小倉	鹿島田	日吉地区以外の幸区	川崎区	中原区	高津区	宮前区麻生区	横浜市	東京都	不明	計
399	79	20	2	2	27	11	7	3	2	14	1	4	571

(4) NPO法人 秋桜舎 コスモスの家

1. コスモスの家(理念・事業目的)現状

(1)理念～住み続けられる「まちづくり」

誰もが何らかの役割を担って地域に関わり、助け助けられたりすることで「人のつながり」が強まり、「地域の福祉力」を高めることができます。「ふれあいセンター」は「地域の福祉力」を高めるための1つのプラットフォーム装置としての働きがあります。「利用者から参加者へ」との考えを持って推進していきます。

(2)コスモスの家の事業(定款から)

- ①介護保険法に基づく居宅サービス事業 ②介護保険法に基づく居宅介護支援事業
- ③ " 介護予防サービス事業 ④ " 介護予防支援事業
- ⑤行政の福祉・介護事業等の受託事業 ⑥独居または病弱の高齢者等に対する給食宅配事業
- ⑦高齢者及び中高年の中途障害者等を対象とする日帰り介護事業および訪問介護事業
- ⑧高齢者の福祉に関する情報提供等の事業

と法人の定款には規定されており、力量に応じた事業を実施しています。

2. 三田ふれあいセンターの活動内容

- ①昼食会～ふれあいセンターでボランティアが中心となり三田地域に住む高齢者を対象
- ②ハーモニカ愛好会～昼食会のメンバーが中心となり昼食会後実習
- ③ケーキを焼く会～ボランティアが三田地域に住む30～40代の女性を対象にケーキづくり
- ④喫茶室～ふれあいセンターでボランティアとコスモスの家職員とで実施
- ⑤ヨガ・クラブ～生田中学校付属施設でボランティアが、主に三田地域を対象に実施
- ⑥俳句の会～生田中学校付属施設で、ボランティアが実施
- ⑦パソコン教室～4名のボランティアが生田中学校付属施設で実施
- ⑧健康麻雀クラブ～ボランティアとコスモスの家職員により、主に三田地域の麻雀好きを対象に実施
- ⑨その他～ふれあいまつり、お花見の会、男の料理教室等

3. 効果

- ①人が人を呼ぶ～口コミで人から人へと伝えられる～コスモスの家の宣伝ともなっています。
- ②相乗効果がある～コスモスの家の理念をベースに事業の拡大が図られます。
- ③各地からの見学・講演の依頼があります。 ④地域の人の「ふれあい」・「協力」・「参加」の意識が高まります。
- ⑤横断的なつながりが可能となります。 ⑥地域住民が自由に生きるための選択肢を創出しています。

4. 課題

- ①地域調査の結果「気軽に集える場所がない」「定年退職者の活躍の場がない」といったことが判明しました。
- ②これからは、営利事業も非営利事業も統括して、事業運営のバランスをとることを、より一層求められることとなります。

5. 今後の問題点・対策

- ①地域のコーディネーターと関係者(行政、社会福祉協議会、民生・児童委員等)の交流会(連絡会)を開催する必要があります。
- ②NPO法人における社会福祉士(コーディネーター)の養成が必要となります。

(5) すずの会

1. 地区を取り巻く環境

野川地区は宮前区の東端にあり、若いといわれていた町もブロックごとに見ると、40年前に開発された住宅地は一気に高齢化が進み、一人暮らしや、高齢者のみの世帯が急増しています。又、地区内にある2つの団地は高齢化率が55パーセントを超えており問題が山積となっています。

2. 活動を開始したきっかけ

介護経験を地域の中で生かそうと、10年間の介護を支えてくれた小学校のPTAの仲間5名が中心になり、高齢者や介護者のサポート活動からスタートしました。現在は59名のメンバーが活動しています。

3. 具体的活動内容

- ①野川セブン
- ②ミニデイサービス
- ③バリアフリーの旅
- ④ダイヤモンドクラブ
- ⑤介護支援活動
- ⑥介護情報誌発行
- ⑦特別養護老人ホーム内での喫茶
- ⑧地域ネットワーク作り・マップ作り
- ⑨みんなDe体操

4. 活動の成果・課題等

- ①核となる人材・次世代の後継者を育てていくことが必要です。
- ②バラエティー豊かな活動に発展してきた事は大きな成果となっています。地域マップづくりによって、野川地区全体の支援を必要とする高齢者、障害者、子育て中の母親などを緩やかにつなげ、抱える課題を発掘し、ご近所の手助けにつなげることができました。
- ③事業の継続化、一般化を行いました。個別の団体やリーダーも巻き込み、身近な単位で活躍している世話焼きさんの力を活かし、多くの地域住民の力で問題解決を行うことが可能となりました。
- ④厚生労働省「これからの地域福祉のあり方研究会報告」に「すずの会」の実践、身近なご近所単位の支え合いが先駆的取り組みとして報告されています。

5. 今後の目標等

地域の中で活動する自主活動団体と、より身近なご近所単位の集いの場を増やし、地域と既存の団体、地区社協、老人会、町内会、民生・児童委員、包括支援センター、介護事業者、高齢者施設、行政、医療機関などが連携し、地域の問題を迅速に解決に結び付けられるよう、住民主体のネットワークを目標にしています。

「すずの会」は野川地区で、24,800人の住民が、「ここに住んでいてよかった」と思える地域ネットワークづくりと実践活動を楽しく続けるために、後継者の育成も視野に入れ住民主体のまちづくりに取り組みたいと考えています。

(6) モトスミ・オズ通り商店街振興組合

1. 商店街を取り巻く環境

モトスミ・オズ通り商店街は、東急東横線元住吉駅東口の街区に位置しています。商店街の歴史が比較的古いことから長く商売を営んでいる商店が多く、地域に居住する住民を対象に、地域に密着した商業活動を展開してきましたが、大型店への消費者の流出、景気低迷等を背景に商店街の集客力が低下する傾向です。一方、高齢化や核家族化の進展、学校の週休2日制の開始などから、地域において高齢者や子育て中の親、子どもなど多様な世代の住民がコミュニケーションを図れる場へのニーズが高まっています。

2. 活動を開始したきっかけ

コミュニティ事業を開始するきっかけは、隣駅である日吉駅前に立地する慶應義塾大学のボランティア・サークル「ピース・プロダクション」に所属する学生が、バザーに出すための寄付品集めの相談を商店街に持ちかけたことにありました。この出会いを活かし、ボランティアを中心とした、人と人との交流あるまちづくりを目指すこととなりました。

3. 具体的活動内容

①託児サービスの実施

コミュニティ施設では、平日の11時～16時に、託児サービスを実施しました。

②無料休憩施設としての開放

コミュニティ施設は奥で託児サービスを実施するとともに、前面スペースは無料休憩施設として開放し、トイレ利用なども可能としました。

③大学生による寺子屋塾の実施

毎週土曜日の14時～16時には、慶應義塾大学「ピース・プロダクション」のメンバーが、小学生を対象に、学年の異なる子どもたちと大学生が一緒になって遊び・学ぶ場である「寺子屋塾」を開催しています。

④ボランティア・フェスティバルの開催

商店街が中長期的に目指しているのは、「世代間の枠を超えた人と人との交流ある街」「ボランティアの心に満ちた優しさのある街」です。この思想を地域に根付かせるためにも、年に2回のイベントを開催しています。

⑤子育て情報の発信

中原区役所との連携により子育て情報を配信しています。

4. 活動の成果・課題等

現在の商店街の活動は、孤立しがちな子どもたちや、子育て中の母親たちに「街なかに出る、人と触れ合う」機会の提供につながっています。さらに、大学のボランティア・サークルのメンバーという協力者が存在することによって、コミュニケーションの円滑化や、人への優しさの啓発といった効果も生み出されています。

5. 今後の目標等

これまでの成果と課題を踏まえ、高齢者も視野に入れた「多様な世代間交流」と、さまざまな市民活動グループとの連携による「事業の持続可能な推進体制の構築」を目指し、取り組みを開始しました。

(7) NPO法人 小杉駅周辺エリアマネジメント

1. 設立趣旨

新たなまちづくりが進められている地域を中心に、地域のコミュニティを形成・育成しながら、まちを育てていく活動を行い、豊かな地域社会の実現を図り、広く公益に貢献することをめざし、地域の方々が中心となり平成19年3月に設立し、同年4月に法人登記を行いました。

2. 設立に至る経緯

- (1) 開発対象地区は元々工場敷地等であったため、居住者が殆ど存在せず、地域コミュニティそのものが極めて希薄でした。
- (2) 開発により、約5,000戸、1万5千人の人口増加が見込まれることとなりました。
- (3) 平成16年度に「まちづくり戦略会議」を設置しました。
- (4) 検討された内容を実現していくため、地域の方々が中心となりNPOを設立しました。

3. これまでの取組み

5つの活動コンセプトのもとに活動

- (1) 育てる
 - ・こすぎこども探検隊の実施(月1回)・・・こどもの活動を通じ住民相互の交流を促進
- (2) 輪をつくる
 - ・ホームページ開設、月刊紙の発行 ・パパママパーク・こすぎ
 - ・アフタヌーン・ティーサロン・こすぎ ・文化芸術による創造のまち事業(フロアーコンサート)
- (3) きれいにする
 - ・パブリックスペースの清掃活動 ・放置自転車防止対策、マナー向上
- (4) 街を賑やかにする
 - ・商業の活性化
- (5) 地域に貢献する仲間づくりと連携
 - ・市民グループ等に活動の場を提供

4. 今後の課題

- (1) 継続的な活動資金(NPO会費)の確保
- (2) 活動を担う人材の確保、多様な住民の参画による組織体制の強化
- (3) 15,000人の新たな居住者と既存住民との新たな関係性の構築

5. 考察

「NPO小杉駅周辺エリアマネジメント」の進める活動は、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業者・地権者等による主体的な取組です。事業対象区域に居住される方々には、NPOの会員となっただき、会費として、戸あたり300円/月を徴収する取組を進めています。これらの取組や仕組みは、今後の川崎市における大規模集合住宅建設等に伴うコミュニティ形成のモデルになりうる事例であると考えます。